

あゆみ通信

VOL. 201

あゆみの会(真宗大谷
派大阪教区第2組同朋
の会)推薦(連絡協議会)
会長 細川 克彦
広報 本持 喜康

親鸞のことば

海に入れば、すべて
ひとしくなる

ほんしょうぎやくほう

凡聖、逆謗ひとしく

えにゅう

回入すれば衆水、海に入り
て一味なるがごとし

正信偈

「凡聖」とは凡夫と聖者のこと。
「逆謗」とはひどい罪を犯した
者や仏法をそしめる者のことです。
親鸞は、阿弥陀さまの本願の分
け隔てのない救いを、海にたと
えて讃えています。

海には汚れた水も澄んだ水も
流れ込み、それらは必ず一つの
塩味となります。本願もこのよ
うな海の性質と同様に、どんな
人間も平等に受け入れ、さと
りを得させるのです。このはたら
きを「必然(人を必ず仏にさせる)
」と言います。また、どんな
人も救うと言う本願のはたら
きが変わったり衰えたらしな
いことを「不改(はたらきがあら
たまわらない)」と言います。
このような本願の海があなたに
は用意されているのです。

。(名古屋別院監修「人生を照らす親鸞
の言葉」より)

あけましておめで
とうございます。

今年もよろしくお願いいたしま
す。

新年を迎えて、引き締まる思
いがあります。大阪教区教化セ
ンター主幹であった本田恵先生
の言葉を年頭にお伝えします。

「来し方、数年を思うに、一日
として同じ日があつただろうか。
一度限りの人生だと言うことは、
繰り返すことの出来ない、一日
一日を過ごしてきたことである。
今日は前代未聞の一日である。
明日はいまだかつて出遇ったこ
とのない、私の生涯はじめての
朝を迎える。朝、仏前の礼拝は、
事実として初詣であつたのであ
る」

今年は、心あらたにして、一
日一日を生きていけたらと思う
ことです。聞法第一。(本)

新年のご挨拶

会長 細川克彦(佛足寺)



新年
あけま
してお
めで
とうご
ざい
ます。

昨年4
月には、
教区慶
讃テー
マ「南
無阿弥
陀仏 人と生まれたこと
の意味をたずねていこう
みんなに願いがかけら
れている」の下、大阪教
区「宗祖親鸞聖人御誕生8
50年・立教開宗800年」
の法要が勤まりました。

参詣されて、皆さまは
どのような感銘を持たれ
たでしょうか。私は、心
から親鸞聖人のご誕生を
喜び、親鸞聖人の教えに
本当に出遇えているのだ
ろうかと、恥じ入る思い
でした。

最近、久しぶりに、推
進員になった時、親鸞聖
人の前で読んだ宣誓文を
取り出してみました。

朝夕のお勤め、お内仏
の正しい莊厳とお給仕、
友を誘っての聞法、子ど
もに仏法を伝える、本廟
奉仕を呼びかけるなど、
出来ていないことがいく
つもあり、恥ずかしくて
宣誓文を早くしまっ
てしまいたい気がしま
した。

今年も皆様と共に聞法
に努め、親鸞聖人の教え
に出遇いたいと願って
います。

どうぞよろしくお願い
いたします。合掌。

あゆみの会総会 やります

従来の1カ月遅れですが、
あゆみの会総会を下記の
通り開催いたします。

発足以来、親鸞聖人の
教えである「共に」のも
とに、17年目を会員皆
さんと共に今日を迎える
ことが出来ました。

発足当初の皆さんが、
少しづつ、ご病気や体調
などの理由でお顔が見
られないのは淋しいです
が、防寒対策して同窓
会のもりで、ご参加く
ださい。

あゆみの会 総会

日時 1月25日(日) 13:30

会場 即應寺(阿倍野区阪南町)

内容 総会(事業報告、会計報
告、事業計画案、予算案等)

法話

講題

聞法の三要点

講師

藤井善隆先生

(即應寺 前住職)

その他

2026年の年会費

(会員2000円、

家族会員3500円)を受付け
させていただきます。

(別途、ご案内します)

第41回同朋大 会にご参集を

第2

組では、

住職や

坊守、

寺族と

門徒や

推進員

が共に

学ぶ共

同教化

事業を、

真宗大谷派 大阪教区第二組

第41回 同朋大会

音楽演奏会と記念講演

2026年 3月7日(土) 午後2時~午後4時

演奏: 相愛大学音楽学部による弦楽四重奏

講師: 真城 義恵師

元大谷大学山崎聖徳院 普門寺住職
元大谷大学山崎聖徳院 普門寺住職
前真宗大谷大学専修理事

講題: 「ふかき法にあひまづる」

会場: 難波別院(南御堂) 同朋会館1階 講堂

大谷中法区大谷町4-1-1
難波別院: 大谷町4-1-1(本堂裏) 中法区: 難波別院(四ツ橋駅)
13号出口より徒歩5分

参加費: 1,000円 (記念品贈呈)

参加券

お名前 氏名 印

継承しています。

2026年最初の仏事として、3月7日(土)に、恒例の第41回第2組同朋大会が以下の通り開催されます。

お誘いあわせの上で、ご参集ください。

日時 **3月7(土) 14時開会**
(13:30から受付)

会場 難波別院同朋会館講堂
(地下鉄御堂筋線・中央線本町駅下車。⑬出口から南へ)

内容 お勤めと演奏会と法話
演奏 相愛大学音楽部 弦楽

四重奏

講題「ふかきみ法にあいまつる」

講師 真城 義磨先生(真宗大谷派山陽四国教区善照寺住職・前大谷中学・高等学校校長)

参加費 1000円(記念品有)

萼先生法話聞書

佛足寺 細川 克彦



第2組報恩講のご講師として、浄土真宗本願寺派の萼慶典先生が、節談説教と言う形で法話をされました。



先生ははじめに「讃題」として、覚如上人のご制作になる『報恩講私記(式文)』

より、

「弟子四禅の線の端に、

適、南浮人身の針を貫き、

曠海の浪の上に、希に、



西土仏教の查に遇えり。

ここに祖師聖人の化導によりて、法蔵因位の本誓を聴く、歓喜胸に満ち渴仰肝に銘ず。しかればすなわち、報じても報ずべきは大悲の仏恩、謝しても謝すべきは師長の

遺徳なり」と、朗々と誦いあげられました。

その内容について先生は、天から地上に落ちた針に糸を通すように、人間に生まれ難いこと、また、仏法に遇い難いことを、亀が百年に一度海面に顔を出した時、大洋にただよっている板にぶつかるほど困難であることを譬えていると説かれました。

そして仏さまの慈悲の深さを、あるお母さんが



夫亡きあと、苦勞を重ねて、子らを育て上げたこと。そして死んでも子らに「なむあみだぶつ」と働きかけているというお話をされました。

休憩後、良寛さまのお話をされ、ある在家の人が大地震にあつて、困難を逃れる方法を良寛さまに手紙で尋ねられたら、良寛さまは「災難にあう時は、災難に会うがよからう。死ぬ時は、死ぬが

よからう」と返事をされた。しかし、私たちはそういう心境になれるでしょうか。嘆きも時間がたてば忘れてしまうのではないのでしょうかと。

また、先生のお兄様が14歳で亡くなられた時のお



話をされました。

お兄様が病気になって入院されていた時、第2次大戦の開戦の時と重なって、薬が手に入らずまた病院からも出なければならなくなり、亡くなってしまわれたと。その後、お母様は80歳を過ぎた頃から認知症がでて、お勤めのたびに、そのことを思い出されて、慟哭されていたと。

しかし、お母様は亡くなられるまで「なむあみだぶつ」と称え続けられていたと。

お母様のお姿から、仏さまは共に居てくださる、仏さまに囲まれて生きている、この身は、仏さまのはたらき場であると、知ることができたと話されました。

